時事新報

市内の電氣鐵道

近頃東京府下に電氣鐵道敷設の計畫あり或は其敷設法にも種々の式あるよしにて自から利害論もあらんなれども技術上の事は我輩の關せざる所として之を擱き單線式にても複線式にても苟も線を空中に架して電氣を通ずるものは市中の美觀を損するの恐ありとて其計畫に反對するものありと云ふ耳入りたる次第なりと云ふ可し抑も市中の美觀とは何ぞや西洋文明諸國の都府の如きは市中到る處に電線を架して恰も蜘蛛の巣を張りたるとも一般なるに反し支那の北京、朝鮮の京城なども全市街に一本の電線をも見るを得ず執れを目して美觀と認む可きや反對者は果して東京を北京や城と同一ならしめて滿足せんとするものなるや否や現に今日に於ても東京府下には電信電話電燈の架空線、市中に縱横して市民の便利一方ならず地方人なども之を見て府下の繁盛を卜するみとなるに果して架空の電線を以て美觀を損するものと爲すときは是等の線も悉く取拂はざる可らず到底實際に出來ざるみとなり或は電信線の如きは高き柱の上に懸りて頂上を通過するが故に妨なけれども電氣鐵道の線路は割合に低くして人の目に觸れ易きが故に目障りなりと云はんかなれども若しも此點より見るときは彼のむさくるしき人力車が客を載せて市中を走り又瓦斯馬車が疲馬を驅り雨後の泥濘を飛して人を苦しむるが如き最も目障りの甚だしきものならずや電氣鐵道は客車の外觀綺麗なるのみならず車の動搖少なくして乘心も甚だ愉快なりと云へば一たび開業の上は彼の破れ人力、瓦斯馬車の如き自から數を減ずるに至る可し寧ろ市中の美觀を增すものに非ずや且つ又今の東京は市中の廣さ割合に往來交通の便甚だ少なし左れば役所又は工場等に日々通勤する小役人職工勞働者の如きも自から其近邊に居を占むるものの多きが故に高樓の隣に矮屋を認め大店の側に長屋を見る等、市街の外觀甚だ不體裁なれども市の内外を通じて電氣鐵道の敷設を見る時は下流の塵は其便利を利して遠く市外に居を移し市街の體裁も自から觀を改むるに至る可し鐵道電線は文明の利器にして其數の多少は以て一國進歩の度を卜するに足る可し世界普通の例なるに然るに市街の美觀云々の爲めに之に反對とは何事ぞや我輩の解せざる所なり或は又電氣鐵道の架空線は火災消防の妨を爲すが故に許す可らずとの說もあるよし今日まで電信電話等の架空線の爲めに消防に不便を感じたるの談を聞かざれども假りに一歩を讓り電氣鐵道の電線は一種特別の設なるが故に消防器械の運搬等に妨ありとせんか一二條の細線いよ〳〵非常の場合には之を切斷するみと甚だ容易にして其邊の臨機法は豫め鐵道會社と打合せ置くも可なり消防の不便を避くる方法は自から其他に工風もある可し決して掛念に及ばざるみとなり電燈の如き電話の如き最初は種々の反對ありしにも拘はらず實施の上、効能の大なるは世人の既に認むる所なり電氣鐵道も同樣にして如何なる故障反對あるも一二年の内には必ず其實施を見るみと疑ふ可からざれば寧ろ速に之を許して實施の上成は不都合の點もあらば隨て其改良を謀らしむるみと智者の事なる可し

雜報

○南征所見

六月廿六日　臺北に於て　特派員　市川高策

上陸後の三大戰

左に掲ぐるは近衛師團參謀長酸鳴大佐談話の要領にして同師團が澳底上陸以來臺北占領に至る間の三大戰ども目すべきもの〻戰鬪經過を記述せしものなり抑も近衛師團が臺灣上陸以來臺北府を占領する迄の間に隊伍を整備して戰鬪したるは大小八回にして即ち上陸地點たる澳底及び金山(三貂大嶺の西北にして金膠蔣の東南なり、シムモ灣、金膠蔣(土民は此地を瑞芳と呼ぶ)北斗街道と鷄籠との三叉路附近、鷄籠市街以東の諸砲臺、同以西の砲臺并に臺北府の占領なりとす其内金膠蔣に於ける前衛の衝突及び鷄籠攻擊に於ける第一第二期の戰鬪は最も猛烈なる激戰なりしが其他は歩兵一大隊乃至同一小隊の遭遇戰或は一部の攻擊にして先づ小戰鬪と云ふて可なり今其三大戰に付戰鬪の經過を列敘すれば大略左の如し

金膠蔣の戰鬪

六月二日（此前夜師團長は前衛を以て金膠蔣附近の敵を攻擊すべきを川村旅團長に命ぜらる）午前八時三十分頃前衛は先づ金膠蔣の東方山頂に在る敵の砲兵陣地を攻擊して砲二門を分捕り續て突進追擊するや其途中即ち隱蔽地にして道路屈折の處なる金膠蔣の市街入口に於て敵と遭遇し僅かに入乃至十米突の近距離を以て接戰し數十分時にして之を擊退するや敵は約二千名なりと云ふ其後敵は一時二千米突許り退却せしが其後敵は一時二千米突許り退却せしが其後敵は一時二千米突許り退却せしが